

伝道印刷者 S . W . ウィリアムズのマカオ生活

- - - 月刊雑誌 *Chinese Repository* (1832-51) の運営を中心とする一考察 - - -

S. Wells Williams in Macao

--- Focusing on his running of the monthly *Chinese Repository* (1832-51) ---

宮 澤 眞 一

Miyazawa Shinichi

Soon after the founding of the English monthly paper, *The Chinese Repository*, in Macao/Canton, S. Wells Williams was invited by the American Mission Board to join E.C. Bridgman, editor, to run its missionary printing office. Williams worked with Chinese assistants in his typesetting room and picked up his knowledge of Chinese, eventually to publish one of the long-standing books on China. By tracing his long stay in Macao, we may catch rare glimpses of the town life in the first half of the 19th century, while in his coterie appeared to disappear such persons of various talents as W.Jardine, C.Gutzlaff, R. & J.R.Morrison, D.W.C.Olyphant, W.Medhurst, J.C.Hepburn, S.R.Brown and Commodore Perry. This article refers to them in relevance to their commitments to the modern history of Japan, and is finalized by the appended list of W.S.Williams' contributions to the monthly paper.

マカオに渡来するまでのウィリアムズ

The Chinese Repository の創刊事情について

清朝中国の活版印刷とウィリアムズの伝道印刷所

The Chinese Repository の顛末

ウィリアムズの投稿記事

注

APPENDIX: A List of S. Wells Williams' Articles in *the Chinese Repository*

マカオに渡来するまでのウィリアムズ

国際都市の名に真にふさわしい発展の一途を今も遂げている上海。中国人の都市、旧上海城のそとに、泥沼のなかから咲き出た蓮のように、文字通り泥沼を埋め立てて、外国人による上海租界の建設が始まっている。米国人ジャーナリスト、ハウザーは、こうした過程について読みやすく興味深い書物を戦前に書いている^(注1)。そのタイトルも『上海 - - - 売りに出た都市』である。ところが、戦後間もない1960年と最近、中国語訳の『出賣上海灘』が出版された^(注2)。英仏米各国ごとの租界に始まる上海灘が、特異な国際的な公共租界に再編成されて発達し、やがて日本軍進攻による変貌の危機に曝されるまでのプロセスを辿っている。読みやすいのは、若々しい巧みな筆致で、なまなましく描き出しているためだ。それに、「出賣」とか「売りに出た」都市 (City for Sale) というタイトル自体、若々しいジャーナリスト感性を如実に表明している好著ではある。

発展を遂げた今日の都市が、かつて歴史プロセスのなかで、売りに出たとか、物々交換の対象になった事実は、ほんとうに起こりえたのであろうか。背表紙を見た一般読者は、書棚に手を伸ばす前に、タイトルから受けた動揺を隠せないでいる。ニューヨーク市だってそうじゃないかと、こんなときに脇で*sotto voce* 呟く人は、歴史学者だけであらう^(注3)。実際、驚く話ではないのである。先進国による後進国の産物や労働力の支配は、人類の歴史そのものであるかのように、枚挙に暇のないほどである。

ナツメグ香料をめぐる西洋列強の争奪戦は、バンダ諸島 (Banda Islands) の小島ラン (Run) との交換で、はじめ英国に、やがて米国市民に、ニューヨーク市を手中に納めさせた^(注4)。オランダとの物々交換の結果が、米国資本の今日的なシンボル、ニューヨーク市の発展する姿なのである。それに比較したときに、今日の上海は、公共租界としての初期形成以来、中国資本と共に外国資本が、絡み合いながら、相互に発達させてきた東西融合の国際都市の性格を維持している。上海の歴史を考えると、どうしても英国や日本の役割に関心が傾きがちであらうが、米国人の貢献、とりわけ国際性の形成に果たした米国人の役割に、注目したいのである。米国商人の自由な気風や、自治精神の寄与^(注5)、それに米国人伝道師たちの働き、こうした重要な役割を演じた米国人に焦点を当てた伝記文学的な研究が、今後もっと深化してもよいと思われる。

マカオから上海へ、上海から横浜へ、と北上する黒潮。この流れに似た一連の歴史プロ

セスのなかで、伝記文学的な位置付けをするのに、恰好の対象が、S・ウェルズ・ウィリアムズ (Samuel Wells Williams: 1812-84。以下、S WWと省略する) であろうと、仮説的に考えた。S WW研究・評価は日本で遅れている。モリソン号による日本渡来、音吉ら日本人漂流民の世話、ペリー使節団通訳としての再来日。こうした幕末の黒船騒ぎの影に隠れながら、S WWの名前だけが日本で一人歩きしているようだ。なぜか、日本キリスト教団、近代日本史研究者、歴史伝記小説家、こうした関連する分野におけるS WWの研究・評価の成果は、ほとんど皆無に近いようである。本稿では、米国伝道会のマカオ印刷所に焦点をあてながら、S WWの再評価を試みる。

S WWの息子フレデリックによる伝記が、没後の1888年に出版され^(注6)、2004年には中国語の訳書が出ている^(注7)。この伝記資料を読んでみて思う事々の多いなかで、本稿に関連しては、特に次の二点を指摘しておきたい。一つには、S WWのマカオ行きが、米国長老派教会に所属する献身的な両親の感化に負うものであること。二つ目には、日本語の表現で使う「でも」が、S WWの性格面に感じられる点である。ニューヨーク州の小都市ユーティカ (Utica) で印刷業を営む父親は、印刷のかたわらに、宗教書や地方紙の発行を手がけ、更に書店まで経営していた。郷土史での評価は、「軍隊では陸軍大佐、教会では長老、消防では団長、それに有力新聞の編集者であるウィリアムズ氏は、当代でも最も忙しい人望家の一人にちがいない」と述べている^(注8)。長男として父親の家業を助けて成長したS WWが、父親の勧めによって、広東・マカオの米国系伝道印刷所及び同所発行の月刊雑誌『中国研究雑録』(*The Chinese Repository*, 1832/5-1851/12)^(注9)に就職するに至る経緯は、生い立ちからも容易に推測できるであろう。「でも」、成長期のS WWの関心は、印刷や伝道にあらず、博物学の調査研究に傾斜していて、内心では、幼なじみの同好の士ダナ (James D. Dana) と同様に、エール大学に進学し、研究者になりたかった。S WWの日記や書簡を読んでいると、そんな内心の悲痛な叫びが、行間から鮮明に聞こえてくる。

上記したように、「でも」の性格者のS WWである。多面的に分析して、躊躇してしまう性格なのに、結局は、一途の道を選択し邁進する。敬虔で熱心なキリスト教信者の生涯を送り、一つの主義を貫いた人物 (man of principle) に終始した、とは表面的に映る姿にすぎない。内面を垣間見ていくうちに、たえず「でも」を連発しては躊躇するS WWの新たなイメージが、瞼の裏に浮かんでくるのである。固そうに見える貝殻にしても、その形成の始まりに、内側の柔らかな身の生命がある。「でも」は、そんな外面の堅固さと内面の柔らかさの葛藤とも言える。妻に送った上海からの手紙の一つ、後年の1872年8月24日の手

紙には、この性格面に自ら言及して、ヘボン (J.C. Hepburn) の興味深いエピソードを伝えている。「ヘボンの話によれば、僕は、横浜で『ただし殿』(sic. Mr. Tadoshi)とか『でも殿』(Mr. But) という渾名で、広く知られているそうです」(注¹⁰)。

自分の内心の志向は博物学にありながら、「でも」それを抑える。実母の死去と父親の再婚するなかで、十四人もの子沢山な親たちの家計を助けるために、マカオ行きを決断する。こんな形で長男の義務と愛情を達成したかったと推測できる。「お父さん、手紙の一つで触れておられたことなんですが、僕が、自分の意思で中国に渡航したのかどうか、と多くの人に尋ねられたそうですね。ほかの人たちがそう観察していることについて、古里のユーティカを後にして以来、少し考えておりました。(別離しようとしている古里の全てを見て廻り、あれこれと思い出したりするときに) つい僕は、どこかで後悔めいた言葉を漏らしてしまったのでしょうか。たしかに、そんな後悔の言葉を口にしたとしても、現実は一八三三年六月十五日なのです。この日に、僕は、すべてを後に残して、米国を離れたということなのです」(注¹¹)。

結婚後に受洗した実母は、父親に負けないくらい敬虔な信者になった。S W Wの幼い頃から、海外伝道に捧げたいと希望していたらしい。「あるとき教会で、慈善活動の援助を求める熱のこもった説教に、深く感動したものの、説教のあとに行われる献金の段階となり、募金に協力したくても、十分な手段がないと知った母親ソフィア。それで彼女は、母親の持っている最も神聖な宝物を差し出すことにした。『私の二人の息子を献じます』と紙片に書き、祈りを込めて、献金籠に紙を入れた。彼女の死後に実現することになるけれど、この祈りに神様は応えられた。彼女に劣らない誠意をもって、二人の息子の人生は、異教徒の再生のために捧げられたからである」(注¹²)。

博物学、なかでも植物採集の関心が、S W Wの生涯で枯渇してしまうことはなかった、と付言しておかなければならない。律儀な癪癢持ちの人柄という点で、S W Wは、英国外交官アーネスト・サトウ (Ernest Mason Satow) に似ている。更に、両者には趣味で共通点がある。書物の収集はともかくとして、ここでは植物採集である。サトウは、息子の武田久吉をロンドン郊外のキュー植物園に招き、植物学者に育てている(注¹³)。S W Wの方は、ペリー提督日本遠征のときに、伊豆下田の山中で沢山の雑草を採集した(注¹⁴)。その標本のなかに、後日に新種を発見した米国の権威エイサ・グレイ (Asa Gray) は、S W Wの植物学的探索と貢献を記念して、ラテン語の学名に彼の名前を採用した (*Clematis williamsii* / 和名・白花半鐘蔓)。サトウもS W Wも単なる志向に終始せずに、生涯の趣味は成果を

生んでいる。頻繁に「でも」を連発しては、躊躇し反発するかも知れないが、そんな性格面が、一時的に抑えられながらも、枯れずにいつか花咲かせるもの、と評価できるであろうか。この一事からも判明する SWW の生涯は、本職と趣味において、いずれにせよ孤独な人間が、内心の声に応えて、忠実に歩んだ一途の道と総括してよい。

The Chinese Repository の創刊事情について

1832 年 5 月創刊の英文月刊誌 *The Chinese Repository*（以下、*Repository* と省略することがある）は、年度ごとにまとめると 20 巻に達する。戦中日本で、復刻英語版の第一号を出版して、15 巻までで中断した。この戦中復刻版には、特異な一面がある。東洋文庫所蔵の同誌第二版を定本に復刻するにあたり、複数の執筆者が、年度ごとの各巻につき、二百頁前後の『支那叢報解説』を執筆して、別途 15 冊で発行していることだ^(注 15)。解説の仕方は各巻執筆者ごとに異なるもの、単なる翻訳であったり、概要だけに終わっていない。人物に関する伝記を調査研究して解説に加えるなど、今日的にも研究資料として益するところが多い。更に、雑誌論文の学術的・歴史的評価を加えている点、関連する内外の資料も併せて指摘している点、全巻にわたる関連記事のクロス・レファランスを怠っていない点など、優れた解説書となっている。

戦後に全 20 巻の復刻英語版第二号が刊行されたが^(注 16)、本稿ではこの戦後版を利用した。ところで、創刊の目的や経緯に関するかぎり、戦中復刻版解説書の監修者による「序」も、編集者ブリッジマンによる「巻頭の辭」も、詳しい事情を伝えていない。また、この月刊雑誌に関するほぼ唯一の論文が、鈴木武によって三回に分けて発表されていて、初回は「創刊事情」をメイン・テーマに取り上げている。丹念な分析を試みた先駆的研究でありながら、ここでも歯切れの悪さが残っている^(注 17)。広東で創刊に係わったのは、二人の米国人、ブリッジマン (Elijah Coleman Bridgman: 1805-1871)^(注 18) とアビール (David Abeel: 1804-1846) である。米国伝道会 (American Mission Board) の派遣した最初の中国・東アジア宣教師であった。篤志家のキリスト教商人オリファント (D.W.C. Olyphant: 1788-1851) の提供によって、宣教師たちの渡航費は、二十年間五十回にわたって無料とされたけれど^(注 19)、彼ら最初の二人は、オリファント商会の持ち船に乗船して、1829 年 10 月 14 日にニューヨークを出帆、広東到着が 1830 年 2 月 25 日。波止場に出迎えた人垣のなかに、ロンドン伝道会から派遣され、孤軍奮闘する英国人宣教師モリソン (Robert

Morrison)の姿があった。その劇的場面は、ウィリアムズの執筆したアビール死亡記事に描かれている(注 20)。やがて体調不良のために一時帰国するアビールの交代要員として、ウィリアムズが中国へ赴任する経緯、アビールに対する変わらぬ敬愛の念、また、ウィリアムズ自身の到着を出迎え、最初の世話にあたった人がモリソン子息(J.R.Morrison)であることなど、こうした広東・マカオをめぐる伝記的関連性も、トリビアルな雑多事項に違いはいけれど、ここでは指摘しておく必要がある。

広東・マカオにおいて、なぜ英文の月刊雑誌、それも 1830 年代に出版する運びになったのか。創刊の目的や事情は、興味深いテーマである。解明の糸口は、上記鈴木武の示唆するように、米国伝道会の未刊自筆資料のなかに眠っている。鈴木武はこう述べている。「現在も第一級の史料としても利用される Repository ではあるが、意外にもその創刊の事情、その目的および性格について触れられていることが少ないのは、この間の事情を伝える原史料が未整理の部分も含む、といわれる膨大な "Correspondence of the American Board of Commissioners for Foreign Missions" で、そのすべてが宣教師の handwritingの手紙、報告書、日記類であり、極めて判読しにくいものも多数あること、前述した彼ら独特の宗教的レトリックに散りばめられた英文の難解なこと、などの理由によるものと思われる」(注 21)。

活字になっていない自筆文書類は、たしかに扱いにくい。しかし、問題の核心は、米国伝道会が、上記した二人の宣教師に携行させた自筆の指示書にあると思われる。ロンドン伝道会が、先にモリソンを派遣したときに、業務の指示書を出しているが、それは、夫人による伝記(注 22)に活字化されているし、また、ロンドン大学ソアス図書館に寄託された同伝道会の原史料コレクションのなかで、筆者も確認できた。現地に赴いて生活基盤を安定させたあとの業務は、モリソンの場合、三つ挙げられている。最初に中国語の修得に専心し、次に英華辞典を作成する、そして最後の指示は、聖書の中国語訳を作ることである。これら三つの業務に対して、年俸で幾ら支払う、というそんなモリソンの場合に似た派遣の業務指示書が、ブリッジマンたちの場合にも現存するはずである。東アジア一帯の現地人に対する布教活動と文書伝道が、彼らに指示されたと思われ、実際に、アビールは、東南アジアの布教の可能性を探るために、バタビアやシンガポールに渡航し、在住の英国人宣教師メッドハースト (W.H.Medhurst) やギュツラフ (Charles Gutzlaff) などの英国系先輩に助言を得ている。

ところで、学者肌のブリッジマンに与えられた特別な指示のなかに、この月刊雑誌の発行が、具体的に明記されているとは思えない。親米派のモリソンは、1827 年 11 月 20 日の

日付で、米国伝道会に書簡を送り、米国人の宣教師派遣を提案している。米国伝道会からは、ボストン 1828 年 6 月 17 日の日付で、モリソンの提案に対する好意的な返書を送っている^(注 23)。そこでは、もし委員会の決定によって、米国人の宣教師を派遣する暁には、モリソンの豊かな現地経験からの助言と親交を要請している。従って年表的に整理すれば、1827 年 11 月 20 日のモリソン提案に始まり、1828 年 6 月 17 日の米国伝道委員会の好意的な返書、1829 年 10 月 14 日のブリッジマン等のニューヨーク出発・1830 年 2 月 25 日の広東到着、1832 年 5 月の雑誌創刊、そして SWW の 1833 年 6 月 15 日ニューヨーク出発・1833 年 10 月 25 日の広東到着、という流れになる。

モリソンの提案の背後には、前出のオリファントの希望が感じられてならない。孤独なモリソンの同志欲しさに発して、オリファントによる資金援助の申し出に支えられ、二人の派遣が実現したと推測できる。米国伝道委員会の財政的保証となると、二人の年俸に限定されていて、印刷所の運営とか雑誌発行の経費は、二人の現地調達に大方依存する形であったと思われる。更に推測の域を出ないけれど、東洋伝道に派遣された二人を待っていたものが、清朝政府による厳しいキリスト教の弾圧と中国語学習の障害であったから、現地中国人に対する直接的な形の伝道活動は一時的に延期して、欧米人に対する中国事情や文化の啓蒙に傾斜していかざるをえなかった。英文の文書伝道という、現地では間接的な伝道活動を余儀なくされたと想定しておきたい。再び断るまでもなく、米国伝道会の上記自筆文書類を調査しないかぎり、以上の推測・想定を確証できないからである。

清朝中国の活版印刷とウィリアムズの伝道印刷所

新聞や雑誌等の定期刊行物を発行するとなれば、印刷に必要な活字・プレス・紙を常備しなければならない。清朝末期の中国で、英語と中国語の活字 (movable types) をどう調達したのか。活字に注目したいと考えるようになった。活字調達のできない場合に、たとえば幕末維新の横浜では、ワグマン (Charles Wirgman) のように、現地職人に木版を彫らせてみたり、石版や銅版という苦肉の策もありうる^(注 24)。Repository の印刷所においても、同様の事情にあって、印鑑みたいな木版字母を不可欠とするケースが出現したけれど、後述するように、この雑誌における漢字の活版印刷は、もっぱらウィリアムズの貢献に帰してよい。ところで、その前に先ず、英字の定期刊行事情を顧みておく必要がある。

「ガンジス以东のヨーロッパ系定期刊行物」と題する研究が、Repository に掲載されて

いる^(注 25)。同地域に於ける最初の英字新聞は、1805 年の 'Prince of Wales Gazette' であるらしい。1827 年には 'Penang Register and Miscellany' が発行されているけれど、以上の二紙ともペナンで印刷していることだ。後述するように、同地では漢字の字母製作で草分けとなるダイヤーが活躍していた。マラッカでは 'Malacca Observer and Chinese Chronicle' が、1826 年に創刊されていて、同地の英華学院に関係するモリソンが、頻繁に投稿しているというから、すでに *Repository* 創刊の前に、モリソンには研究成果の発表機関があったわけである。また、シンガポールでは、1827 年発行の 'Singapore Chronicle and Commercial Register'、それに広東ではジャーディン (William Matheson) の出資して、ギョツラフの寄稿する 'Canton Register' が、1825 年創刊以来、毎週火曜日に発行されている。こうして概略を辿ってみるだけで、英語の活字セット (front) が、東南アジアの各地に点在していることや、現地の欧米系商人に講読させていることが分かる。*Repository* は、これら商人を主眼においた、より高度の学術的な月刊誌なのである。上記研究の末尾で *Repository* の現況に触れている。創刊号 400 部でスタートしたものが、五年目には 800 部にまで伸びたと述べている。しかし、最終号の頃まで好調は持続せず、最終的に創刊号の部数を下回る形で廃刊に追い込まれた。

1833 年 10 月 25 日に S W W が広東に到着するまで、一年半ほどの間、*Repository* は毎月刊行されていた。印刷所は、国際色ゆたかな十三行街の商館屋敷に置かれていたが、中国政府の嫉妬深いキリスト教迫害を逃れるために、1835 年 11 月にはマカオに移転する。こうして S W W のマカオ生活が本格的に始まる。帰国の日を待ちわびる音吉や久吉ら、数名の日本人漂流民が、印刷所の仕事を手伝いながら、次々と居候したのも、S W W のマカオ印刷所兼自宅である。彼等から日本語の手ほどきを受けたことは言うまでもない。日本人ばかりでなく、中国人やポルトガル人の働くユニークな仕事を監督するのが、彼の職務の一つなのである。こう書簡で伝えている^(注 26)。

「現在、僕たちは八人の中国人の子どもたちを預かって教育しています。学業の方はそれなりに進歩を見せていますけれど、信仰の点になると、敬虔とか真剣とか言える学童は、一人もおりません。僕の印刷所の方には、二人のポルトガル人と三人の中国人がおります。五人中の二人は英語を話します。最初に仕事場に入ったときに、僕は、ほとんど身振りだけで話していました。まもなくして中国語とポルトガル語の両方を少し齧りましたので、ポルトガル語、中国語、それに広東英語 (Canton-English) を混ぜて使う文章で、満足しておりました。最後の広東英語という代物は、実は、三つの言語の混合物 [pidgin English・

訳者注)なのです。しばらくそんなことをしている間に、自分の口から飛び出してくる『バベル言語』を考えると、僕は、我ながら笑ってしまいました。ところが今では本来の中国語とポルトガル語の勉強が少し進みましたので、僕は、両者を別々に使っても相手に理解してもらえる程度になりました。」更に、別の書簡においても、仕事場の様子を父親に詳しく、それもユーモラスに、以下の引用文のように伝えている^(注27)。

「僕の職場は、かなり寒いです。床に石を敷いていたり、部屋の一部に屋根がなかったり、それに暖炉がないためです。当地では、湿気と寒さのひどい、十二月から二月までしか暖房を使わないんですよ(中略)。それにしても僕の印刷所は、かなりユニークです。お父さんにはとても想像できないでしょう。第一に、中国語の活字があります。部屋の四方の壁にそって、箱に入れて配列してあります。探している活字が、すぐに拾えるためには、上向きに字面を並べて見えるようにしておきます。約八ミリの大きさの大文字は、六十箱分あります。全部で二万五千個を超える活字ですし、一つとして同じものはありません。小文字の活字は、箱に入れて、積み重ねてあり、十八ポイントの大プリマ活字と行がそろいますので、二十箱に収めて、やはり字面を表に出して見えるよう配列してあります。部屋の半分以上を占拠している漢字の活字についての話は、これくらいにしておきましょう。鉄製のプレスが一台ありますけれど、英国製の扱いにくいものです。それに、組版台が三つあります。印刷所の備品にくらべて、それで働く印刷工たちとなると、実に珍しい取り合わせです。まず最初に、ポルトガル人の植字工が一人おりますが、英語の単語は一つも知りませんし、まして中国語の活字についても、ほとんど分かっていません。それなのに、中国語と英語の入り交じった本の組版を仕上げてしまいます。彼に話すときには、僕は、不完全ながら、どうにかこうにかポルトガル語で伝えます。さらに、中国人の少年が一人おります。彼は、ポルトガル語も英語も知りませんが、中国語の植字を担当していて、それなりに役目を果たしています。最後に、日本人が一人。この人は、英語とポルトガル語をまったく知りませんし、中国語もほとんどできません。様々な活字を拾いますけれど、間違いも多い。以上の職人たちが仕事をしているとき、僕は、それぞれの人に、別々の母国語で話しかけなければなりません。彼らの誰一人として理解できない内容の本を一冊、みんなで協力して印刷を仕上げるまで、僕は、指揮を取るわけです。こうした状況下でありながら、誤植は少なく、まずまずの正確さで印刷できている、と思います。僕の下で働く国籍の異なる人たちが、意思疎通をはかろうとするお互い同士の健気な努力、そんな場面を目撃したりすると、微笑を禁じえませんが、会話は退屈な内容に終始し

て、しかも不完全にしか伝わらないものですから、結局、大きく発展することはありません。それで、僕の印刷所は、かつての三番街六十番地のお父さんの印刷所を思い出しますと、比較にならないほどの静寂さに包まれていると思います。」

この印刷所兼自宅には、「予言者の部屋」と呼ばれる部屋があり、そこに、モリソン教育協会の招きを受けたブラウン(S.W.Brown) が、翼下の学校を運営するために渡来して住み込んだ。それに、ヘボン (J.C.Hepburn) 夫妻も、S W W と一緒に屋根の下で暮らすことを思い起こすとき、S W W 周辺には、幕末維新の日本で活躍する人物たちが、次々に登場しては、自分の持場に消えていく。そんな街道筋の本陣といった景観がある。

上の引用文に見るように、S W W の印刷所には、英国東印度会社から引き継いだ中国語活字のセットが、大文字小文字を揃えて、常備されてはいたものの、このセットだけで美しい紙面は完成できない状態にあったようである。石や木の面に漢字を彫り込む篆刻の手法によって、いくら金属面に彫ってみても満足できる字母にならない。それで、金属活字打抜き器を開発しようとした第一人者が、上で触れたダイヤー (Samuel Dyer: 1804-1843) なのである。ペナン、マラッカ、シンガポールに居住して、中国語の金属活字の開発に生涯を捧げたロンドン伝道会派遣の牧師であった^(注 28)。これは、ダイヤーのみならず、モリソンや東アジアに在住する人の共通の夢であったのであろう。1833 年 10 月 10 日の書簡において、モリソンはこう言及している^(注 29)。「金属活字の打抜きの出来る中国人をダイヤーはペナンで一人見つけました。僕の息子も広東で同じ打抜きの出来る中国人を数人見つけています。こちらの方がペナンよりも安価に活字を切れる見込みです。」

中国在住の米国商人 (Gideon Nye) による好意的な旅費負担の申し出を受け入れ、S W W は、1844 年 11 月に一時帰国する運びとなる。上で言及したウィリアムズ伝記の第三章の終わりから第四章に、その様子が描かれている。ほぼ十年振りの帰国をいうことになるが、伝記を読むかぎり、この間の S W W の関心は、漢字の金属活字制作をどこに依頼して、どう資金を工面するかに集中しているようである。米国各地の教会を巡回しては、百回を越すハードな講演旅行に乗り出したのも、中国事情や文化の紹介をしたいため、というよりも、謝礼や献金を蓄えて、ダイヤーの遺業を資金的に達成させたいとする熱意以外のなにものでもない。ただ、余祿はあるものだ。講演の原稿をまとめた中国紹介の『中国総論』^(注 30)が、出版当初から好評を博している。それに結婚。著名人となった S W W に伴って、マカオまで渡航しようと決心する伴侶を見つけているからである。

The Chinese Repository の顛末

SWWの熱心な努力にも係わらず、*Repository*は二十年間で廃刊となる。直接の原因は、購読者や支援者の世代交代による売り上げの伸び悩み、それに間接的な要因の一つとして、米国伝道本部の資金難、更に、誌上で展開した英米宣教師間の God 訳語論争も悪影響を与えた。世代交代を示す指標のように、いみじくも最終巻の発行された 1851 年に、オリファントとギュツラフは、あいついで他界した^(注 31)。創刊時に資金的な援助を惜しまなかった前者、それに創刊時にはモリソン親子と並んで原稿の提供と執筆を惜しまなかった後者。彼等の死亡記事は、最終巻のほぼ巻末を飾り、SWWによって執筆されている。では、廃刊後のマカオ・広東の伝道印刷所はどうなったのか。清朝末期の動乱のなかで、大火に見舞われて廃墟となる運命にあった。SWWの母親が、神に約束したように、彼のほかに海外伝道者になった弟 (W.F. Williams) がいる。以下の手紙は、この弟に宛てたものであるが、印刷所の焼失について伝えている。長い引用になるけれど、伝道本部への言及もあるので、そのまま訳出しておきたい^(注 32)。

「マカオ、一八五七年一月二十七日。

「中国と英国のあいだの紛争の推移、そして去る十二月十四日に起きた外国商館街の大火については、君も、なにか聞いていることと推測しております。僕の印刷所と家財は、ほかのものと一緒に、焼け崩れました。手元の出版物のうち、例の『辞書』と『商業案内』は、救われましたが、ほかの本は全部、灰と化しました。印刷所の活字と印刷器具の方は、総額で、二万ドルの価値がありましたけれど、その大半は、伝道会の所有でした。幾らかでも賠償を得られるかどうか、疑問の余地が残ります。第一に、米国政府は、こうした場合に、賠償金を集めようと、急がないことがままあるからです。僕の不注意ということで、自分を責めるような事情ではありませんでした。とにかく、まさか中国側が、外国商館街に火を放つなんて、とても信じられませんでした。それで、新しく借りたマカオの家に、家内がうまく収まってくれたかどうか、様子を見たくなくて、僕は、大火の起きる二日前に、広東をあとにしたばかりの出来事でした。『中国研究雑録』の残部は、運搬できるように箱詰めにしてありましたけれど、焼失してしまいました。僕が現場に居さえしたら、印刷所建物は打つ手なしの状態であっても、雑誌残部の方は、ほとんど救えたはずだ、という思いはしております。この点が最も残念なのです。あとで仕事がしやすいように、残部を箱に入れて、整理してありました。新しい構想〔合本する計画・訳者〕を温めていたか

からです。

「さて、米国公使館勤めの件ですが、書記官になる結論に達しました。もっとも、通訳の任務が、僕に要求される仕事のほぼ全てです。従って、この役職につきましても、中国人との交流と絶縁するわけではなく、また、彼らのために良い働きをしたいという以前からの気持ちからも、無縁になるわけでない（と僕は期待しています）。それに、伝道会本部の方としては、焼失した印刷所施設を復興しないだろう、と僕はかなり自信をもって言えます。いずれそのうちに、印刷所を売却するか、継続を断るか、そのどちらかであろうと、僕は、ほぼ確信しておりました。あの大火は、僕にもそうでしたが、きっと、彼らにとっても、決断するよい機会になったと思います。ただ、今回、印刷所を解体するにしても、最後のなものとは、僕は考えておりません。伝道会本部とその役員の人たちには、僕なりに、多大な敬意の念を抱いています。どの既存の伝道本部と較べても、運営の仕方といい、人事的な中身といい、申し分ないものです。」

ウィリアムズの投稿記事--- 結び

月刊 *Repository* 各号が、創刊号のように 32 頁、と頁数をそろえた編集方針は採用されておらず、原稿次第で増加していく傾向にあった。一年分を合本したものが、20 巻あるけれど、少ないもので 493 頁から、多いもので 688 頁までと、各巻ともに総頁数が一定していない。20 巻全体の平均は、630 頁というところであろうか。最終巻の出た年に、ブリッジマンと S W W の共同編集という形で、百五十頁余りの索引書を作り、テキスト本体と別に刊行した。これは、実務能力にすぐれ、几帳面な S W W の性格の現れと受け止められる一方、後日の研究者には大助かりなのだ。とりわけ重要な資料は、三十の研究分野に、全 20 巻の論文・研究・記事・雑報類を分類したうえで、大方の執筆者名を追加公表してくれている^(注 33)。S W W 本人の場合、全 20 巻のうち、最初から実名入りで掲載した研究論文や記事は数点しかなかった。本稿のアペンディックでは、リストのなかで、署名 (signed) とあるのは、1837 年九月号掲載の「モリソン号日本渡来」を初めとするこうしたフルネームでの執筆である。「W.」のようにイニシアルのみでの執筆は、一部署名 (partially signed) として区別した。リストのほとんどが、匿名 (n.s.) なのである。繰り返しになるが、匿名記事は、上記の索引書によって、執筆を特定できたわけである。更に、索引書を参照しながら、各巻の該当記事や研究論文と照合し、タイトル・掲載頁等の書誌的項目を確定・整

理して、本稿末尾に掲載する年次順の執筆リストを作成できた。

従って、リストとしては二種類あるわけだが、それぞれ、全体像を捉える上で役に立ちそうである。索引リストは、分野別であるので、S W Wの興味の範囲が、歴然と分かる。三十の研究分野のうち、皆無かごく少数の執筆しかないものに、(2)中国政府と政治、(3)中国財政・陸海軍、(5)中国史、(8)旅行、(10)通商貿易、(11)海運、(12)阿片、(13)広東と外国商館、(15)英国と中国の関係、(16)英国との中国戦争、(17)香港、(20)シャイアムとインドシナ、(21)その他のアジア諸民族、(22)東インド諸島、(25)医療伝道、(27)キリスト教教育の諸団体、(28)宗教的内容、(30)雑録、以上の十八分野がある。これと対照的に、多く執筆している分野には、(1)中国地誌、(4)中国人の風俗習慣、(6)自然史、(7)美術・科学・産物、(9)中国語と中国文学、(14)中国の対外関係、(18)中国と米国の関係、(19)日本および朝鮮半島、(23)異教主義、(24)海外伝道会、(26)中国語訳聖書の改訂問題、(29)伝記事項、以上の十二分野を挙げておきたい。また、本稿アペンディックスのリストでは、年次別に辿れるので、上記の分野の間で、S W Wなりに関心の推移する様子が読み取れる。最初の投稿は、1834 年 2 月号の「中国度量衡」(pp.444-6)であり、1846-7 年にかけて、巻数では(15-16 巻)に執筆が皆無に近いのは、一時帰国の時期に該当するためである。最終巻に近づくにつれて、執筆した頁が増加する一方であるのは、ほかの人からの原稿が集まらない結果、編集責任者の S W Wは、埋め草として自分の原稿を矢継ぎ早に提供したための急増である。

本稿の結びとして以下の諸点を述べておきたい。まず、S W Wの執筆リストは、出発点にすぎず、執筆順に同雑誌を読み進み、S W Wの思考や生活の推移を辿る仕事が、今度の課題となる。それに、上で言及した米国伝道会の未刊自筆資料を閲覧したいものである。*Repository*の創刊事情・運営状況・オリファントの資金協力についても、更にはマカオから上海に活動の場を移し、上海に伝道印刷所を設置する運びとなる黒潮的北上の流れに関連しても、これら伝道会の自筆資料を現地調査しないかぎり、前進できないためである。また、S W Wの伝記を読んでいて、思う事々の多いなかに、資料調査の面で気になる点の一つある。書簡や日記等の私的自筆文書からの膨大な引用から成り立っている書物であるだけに、引用されずに終わった書簡や日記部分が、かえって大きくクーズアップされてくる。親族、伝道会、大学や地域の図書館等には、S W W関連の自筆私的文書 (unpublished autograph personal papers)がどこまで現存しているか。探索して、所在確認・現地調査・判読作業を進める必要がある。こうした今後の調査・研究の動きに向けた S W Wの再評

価が、本稿で一部達成できたように思われる。

注

1. Ernest O. Houser: SHANGHAI---City for Sale (現代圖書公司、上海、1940)。
2. 『出賣上海灘』(上海書店出版社、上海、2000 年)。邦訳は昭和 15 年に出版され、2002 年には復刻版が出た。佐藤弘訳『上海』(高山書店、東京、昭和 15 年)、同書復刻版(大空社、東京、2002 年)。
3. Giles Milton: NATHANIEL'S NUTMEG (Hodder and Stoughton, London, 1999)。
4. Milton, 同上書, p.373. "they will tell you that the view from their windows is infinitely more magnificent than Manhattan's glittering skyline."
5. Houser, 前掲書, p.23. "But they brought American ideas which, somehow, seemed to suit the place better than British traditions. Shanghai was young, the taipans were young, the foretaste of rapid development in the air."
6. 初版は未見である。参照した立教大学図書館所蔵版は、以下のように 1889 年の再版らしい。His Son Frederick Wells Williams: THE LIFE AND LETTERS OF SAMUEL WELLS WILLIAMS, MISSIONARY, DIPLOMAT, SINOLOGUE (G.P.Putnam's Sons, New York and London, 1889)。
7. フレデリック・ウェルズ・ウィリアムズ著/顧鈞・江莉共訳『衛三畏生平及書信』(広西師範大学出版社、桂林、2004。ISBN 7-5633-4617-1)。邦訳は出版されていないが、近刊の予定である。
8. Frederick Wells Williams、前掲書、p.6。
9. 英文月刊誌 *Repository* の訳語は、『支那叢報』『中国叢報』『中国宝庫』と統一していないので、本稿では内容から考えて『中国研究雑録』としてみた。
10. Frederick Wells Williams、前掲書、p.392。
11. F.W.Williams、同上書、p.50。
12. F.W.Williams、同上書、p.11。
13. 英国に引退したサトウの後年の自筆日記には、次のような言及が見られる。"Spent part of the morning at the Bodleian, making some notes on the botany of Japan 2nd edit. of Hd. bk. of Japan for Gubbins and went afterwards to visit Arthur," Ernest Satow Diaries, July 22, 1911, PRO/35/33/16/12, Public Record Office, U.K.
14. S・ウェルズ・ウィリアムズ著/洞富雄訳『ペリー日本遠征随行記』(雄松堂書店、東京、昭和 45 年)、p.366。「[1854 年 6 月 22 日]。公務をすべてすませたので、私はモロー〔生物学者・博士〕と最後の散歩を谷間で楽しもうと、丘を越え、その谷の奥に向かった〔中略〕。採集できた花の種類は期待したほど多くはなかった。」
15. 『支那叢報解説』第一巻から第十巻(丸善株式会社、昭和 17 年)、第十一巻から第十五巻(丸善株式会社、昭和 19 年)
16. *The Chinese Repository* (reprinted edition, in 21 vols including the separate Index vol., published by Maruzen, Tokyo, 1968)。
17. 鈴木武「Chinese Repository について」() 『COSMICA』(京都外語大学、1985、第 XV 号、pp.1-13)。

See also: 金子弘「ウィリアムズのローマ字表記」(『日本語日本文学』創価大学日本語日文学会編、March 2000, Vol.10, pp.59-69)。

18. 「各欄總説」『支那叢報解説』第一巻(丸善株式会社、昭和17年)、p.14。
19. 'The Death of D.W.C. OIyphant, Esq.', The Chinese Repository, Vol.XX, No. 7 (July 1851), pp.509-11。
20. 'Memoir of Rev. D. Abeel', The Chinese Repository, Vol. VIII, No. 5 (May 1849), pp.260-275。
21. 鈴木武、前掲論文、p.2。同論文の巻末において(p.12)、同志社大学の所蔵する同自筆文書のマイクロフィルムを利用した、と鈴木武は断っている。
22. 'Letter of General Instructions' dated London, January 20, 1807, MEMOIRS OF THE LIFE AND LABOURS OF ROBERT MORRISON, by his widow, 2 vols., (Longman, Orme, Brown, Green and Longmans, London, 1839)。 Vol.I, pp.95-6。
23. 同上書、MEMOIRS, Vol.II, pp.404-406。
24. 清水勲訳編『ワグマン素描集』(岩波文庫、東京、平成元年)。
25. 'European Periodicals beyond the Ganzes', 前掲書 Chinese Repository, Vol. V, No. 4 (August 1836), pp.145-160。参照: 都田恒太郎『ロバート・モリソンとその周辺』(教文館、東京、1974)。
26. Frederick Wells Williams, 前掲書、p.68。
27. 同上書、p.110。
28. 前掲書、『支那叢報解説』第二巻、pp.50-1。
29. 前掲書、MEMOIRS, Vol.II, p.493。
30. S. Wells Williams: THE MIDDLE KINGDOM (Wiley and Putnam, New York, 2 vols, 1848)。
31. 前出'The Death of D.W.C. OIyphant, Esq.' & 'The Death of the Rev. Charles Gutzlaff', The Chinese Repository, Vol.XX, No. 7 (July 1851), pp.509-12。
32. Frederick Wells Williams, 前掲書、p.242。
33. 前掲書、『支那叢報解説』第一巻、監修者の「序」には、全20巻の内容を30項目に分類しているが、これは、索引の分類をそのまま写したに過ぎない。

APPENDIX: A List of S. Wells Williams' Articles in the Chinese Repository

1. n.s. Miscellanies: Money Weights, Commercial Weights, Measures. Vol. II, No. 10, pp. 444-446, Feb., 1834.
2. n.s. Misscellanies: Articles of Import and Export of Canton. Vol. II, No. 10, pp. 447-472, Feb., 1834.
3. n.s. Art. IV. Natural history of China: attention paid to it by the Jesuits, Osbeck and others. Vol. III, No. 2, pp. 83-89, June, 1834.
4. n.s. Art. V. Agriculture of China. Vol. III, No. 3, pp. 121-127, July, 1834.
5. n.s. Art. IV. Rice. Vol. III, No. 5, pp. 231-234, Sept., 1834.
6. n.s. Art. IV. Comparison between the bamboo and the palm: description of the baboo. Vol. III,

No. 6, pp. 261-270, Oct., 1834.

7. n.s. Art. III. Diet of the Chinese. Vol. III, No. 10, pp. 457-471, Feb., 1835.
8. n.s. Art. V. Chinese metallic types; proposals for casting a font of Chinese types by means of steel punches in Paris; attempt made in Boston to stereotype from wooden blocks. Vol. III, No. 11, pp. 528-533, March, 1835.
9. n.s. Art. III. The fur trade. Vol. III, No. 12, pp. 548-559, April, 1835.
10. n.s. Art. V. The Economy of the Chinese illustrated by a notice of the tinkers, with a description of the bellows. Vol. IV, No. 1, pp. 37-39, May, 1835.
11. n.s. Art. VII. Jargon spoken at Canton. Vol. IV, No. 9, pp. 428-435, Jan., 1836.
12. n.s. Art. V. Flora Cochinchinensis; being the work of John de Lourein. Lisbon, 1790. Vol. V, No. 7, pp. 118-122, July, 1836.
13. n.s. Art. II. Description of the agricultural implements. Vol. V, No. 11, pp. 485-494, March, 1837.
14. n.s. Art. V. Urhsheih-sze Heaou, or Twenty-four examples of Filial Duty. Vol. VI, No. 3, pp. 130-142, July, 1837.
15. signed (S. Wells Williams). (quotation of his Advertisement). Art. VI. A dictionary of the Hok-keen dialect by W.H. Medhurst. Vol. VI, No. 3, pp. 142-148, July, 1837.
16. signed (S. Wells Williams). Art. I. Narrative of a voyage of the ship Morrison, captain D. Ingersoll, to Lewchew and Japan, in the months of July and August, 1837. Vol. VI, No. 5, pp. 209-229, Sept., 1837.
17. n.s. Art. VII. Journal of Occurrences. Return of the Morrison from Lewchew and Japan; of the Raleigh, from Fuhkeen and the Bonin islands. Vol. VI, No. 5, p. 255, Sept., 1837.
18. n.s. Art. IV. A complete collection of the miscellaneous words used in the foreign language of Macao. Vol. VI, No. 6, pp. 276-279, Oct., 1837.
19. signed (S. Wells Williams). Art. I. Narrative of a voyage of the ship Morrison, captain D. Ingersoll, to Lewchew and Japan, in the months of July and August, 1837. Vol. VI, No. 8, pp. 353-380, Dec., 1837.
20. n.s. Art. II. Notices of some of the specimens of natural history, which were collected during the voyage of the Morrison to Lewchew and Japan. Vol. VI, No. 9, pp. 406-417, Jan., 1838.
21. n.s. Art. III. Female constancy. Translated from the works of Luhchow. Vol. VI, No. 12, pp. 568-574, April, 1838.
22. n.s. Art. X. Journal of Occurrences: A case of Stragulation. Vol. VI, No. 12, pp. 607-608, April, 1838.
23. partially signed (W). Art. III. Notices of natural history. Vol. VII, No. 2, pp. 90-92, June, 1838.
24. partially signed (W). Art. III. Notices of Natural History. Vol. VII, No. 3, pp. 136-141, July, 1838.
25. partially signed (W). Art. V. Notices of Natural History. Vol. VII, No. 4, pp. 212-217, Aug.,

- 1838.
26. partially signed (W). Art. II. Notices of Natural History. Vol. VII, No. 5, pp. 250-255, Sept., 1838.
 27. partially signed (W). Art. VI. Notices in Natural History. Vol. VII, No. 6, pp. 321-327, Oct., 1838.
 28. partially signed (W). Art. I. Notices in Natural History. Vol. VII, No. 8, pp. 393-399, Dec., 1838.
 29. partially signed (W). Art. IV. Notices in Natural History. Vol. VII, No. 9, pp. 485-490, Jan., 1839.
 30. partially signed (W). Art. V. Remarks on the system of Chinese orthography proposed in the Repository, vol. 6, page 479. Vol. VII, No. 9, pp. 490-497, Jan., 1839.
 31. partially signed (W). Art. III. Notices in Natural History. Vol. VII, No. 10, pp. 541-543, Feb., 1839.
 32. partially signed (W). Art. III. Intercourse with Japan: notices of visits to that country by the Brothers, Captain Peter Gordon; the Eclipse; and the Cyprus. Vol. VII, No. 11, pp. 588-594, March, 1839.
 33. partially signed (W). Art. IV. Notices in Natural History. Vol. VII, No. 11, pp. 595-599, March, 1839.
 34. partially signed (W). Art. II. China Opened. By the Rev. Charles Gutzlaff. London: Smith, Elder, 1838. Vol. VIII, No. 2, pp. 84-98, June, 1839.
 35. n.s. Art. V. Description of the tea plant. Vol. VIII, No. 3, pp. 132-164, July, 1839.
 36. partially signed (W). Art. III. Chun yuen tsaе cha sze. Vol. VIII, No. 4, pp. 195-204, Aug., 1839.
 37. partially signed (W). Art. I. Notice of an embassy sent from three Japanese princes to the pope at Rome in 1582. Vol. VIII, No. 6, pp. 273-282, Oct., 1839.
 38. partially signed (W). Art. III. Instance of revenging the death of a father by a daughter. From the works of Luhchow. Vol. VIII, No. 7, pp. 345-347, Nov., 1839.
 39. n.s. Art. IV. Three Years Travels from Moscow overland to China. Written by Evert Ysbrant Ides. London, W. Freeman, 1706. Vol. VIII, No. 10, pp. 520-529, Feb., 1840.
 40. partially signed (W). Art. V. Illustrations of passages of Scripture, drawn from the manners and customs of the Chinese. Vol. VIII, No. 12, pp. 639-644, April, 1840.
 41. partially signed (W). Art. IV. Ko Dou Dzu Roku, or, A Memoir on Smelting Copper, illustrated with plates. Translated from the original Japanese. Vol. IX, No. 2, pp. 86-101, June, 1840.
 42. n.s. Art. II. Account of two festivals given to the old men of China by the emperors Kanghe and Keelung. Vol. IX, No. 5, pp. 258-267, Sept., 1840.
 43. n.s. Art. VII. Notices of Japan. Vol. IX, No. 5, pp. 291-311, Sept., 1840.
 44. n.s. Art. III. Illustrations of men and things in China. Vol. IX, No. 6, pp. 366-368, Oct., 1840.
 45. n.s. Art. IV. Notices of Japan. Vol. IX, No. 6, pp. 369-389, Oct., 1840.

46. n.s. Art. V. Notices of Japan. Vol. IX, No. 7, pp. 489-505, Nov., 1840.
47. n.s. Art. VI. Illustrations of men and things in China. Vol. IX, No. 7, pp. 506-513, Nov., 1840.
48. partially signed (W). Art. I. Neu Heo, or The Female Instructor. By Luhchow of Fuhkeen, 1730. Vol. IX, No. 8, pp. 537-559, Dec., 1840.
49. n.s. Art. VI. Notices of Japan. Vol. IX, No. 8, pp. 620-635, Dec., 1840.
50. n.s. Art. VII. Illustrations of men and things in China. Vol. IX, No. 8, pp. 635-639, Dec., 1840.
51. n.s. Art. II. Notices of Japan. Vol. X, No. 1, pp. 10-21, Jan., 1841.
52. n.s. Art. VII. Illustrations of men and things in China. Vol. X, No. 1, pp. 49-51, Jan., 1841.
53. n.s. Art. II. Notices of Japan. Vol. X, No. 2, pp. 72-84, Feb., 1841.
54. n.s. Art. VI. Illustrations of men and things in China. Vol. X, No. 2, pp. 104-108, Feb., 1841.
55. n.s. Art. II. Notices of Japan. Vol. X, No. 3, pp. 160-171, March, 1841.
56. n.s. Art. III. Illustrations of men and things in China. Vol. X, No. 3, pp. 172-173, March, 1841.
57. n.s. Art. III. Notices of Japan. Vol. X, No. 4, pp. 205-221, March, 1841.
58. n.s. Art. III. Notices of Japan. Vol. X, No. 5, pp. 279-285, May, 1841.
59. n.s. Art. III. Notices of Japan. Vol. X, No. 6, pp. 309-320, June, 1841.
60. n.s. Art. VI. Illustrations of men and things in China. Vol. X, No. 8, pp. 472-475, Aug., 1841.
61. n.s. Art. IV. Illustrations of men and things in China. Vol. X, No. 8, pp. 519-522, Sept., 1841.
62. n.s. Art. III. Illustrations of men and things in China. Vol. X, No. 11, pp. 613-618, Nov., 1841.
63. n.s. Art. II. New orthography adopted for representing the sounds of Chinese characters, by the Roman alphabet, in the national language and in the dialects of Canton and Fukien. Vol. XI, No. 1, pp. 1-44, Jan., 1842.
64. n.s. Art. V. Illustrations of men and things in China. Vol. XI, No. 6, pp. 325-328, June, 1842.
65. n.s. (review of S.W.W.'s book). Art. IV. New works for aiding the study of the Chinese language: 4. Easy Lessons in Chinese. By S. Wells Williams. Macao, 1842. Vol. XI, No. 7, p. 389, July, 1842.
66. partially signed. Art. II. Sketch of the life of Confucius. Vol. XI, No. 8, pp. 411-425, Aug., 1842.
67. n.s. Art. V. Illustrations of men and things in China. Vol. XI, No. 8, pp. 434-437, Aug., 1842.
68. n.s. Art. VII. Journal of Occurrences. Vol. XI, No. 11, pp. 629-632, Nov., 1842.
69. n.s. Art. VI. Retrospection (Riot and burning of the English Consulate). Vol. XI, No. 12, pp. 687-688, Dec., 1842.
70. n.s. Art. V. Bibliographical Notes. Vol. XII, No. 2, pp. 98-106, Feb., 1843.
71. n.s. Art. III. Alphabetical list of the provinces. XIII, No. 6, pp. 320-327, June, 1844.
72. n.s. Art. IV. Journal of Occurrences: disturbances in Canton, and feeling against foreigners. Vol. XIII, No. 6, pp. 333-335, June, 1844.

73. n.s. Art. II. Alphabetical list of the provinces. Vol. XIII, No. 7, pp. 357-369, July, 1844.
74. n.s. Art. III. Alphabetical list of the provinces. Vol. XIII, No. 8, pp. 418-437., Aug., 1844.
75. n.s. Art. III. Alphabetical list of the provinces. Vol. XIII, No. 9, pp. 478-500, Sept., 1844.
76. n.s. Art. II. Alphabetical list of the provinces. Vol. XIII, No. 10, pp. 513-534, Oct., 1844.
77. n.s. Art. III. A description and translation of a Shan Ping or Longevity Screen. Vol. XIII, No. 10, pp. 535-537, Oct., 1844.
78. n.s. Art. I. Appendix to the alphabetical list of provinces. Vol. XIII, No. 11, pp. 561-578, Nov., 1844.
79. n.s. Art. I. Notices of the Miau Tsz'. Vol. XIV, No. 3, pp. 105-115, March, 1845.
80. n.s. Art. II. Essay on the justice of the dealings with the Miau Tsz'. Vol. XIV, No. 3, pp. 115-117, March, 1845.
81. n.s. (review of S.W.W.'s book). Art. IV. Easy Lessons in Chinese. By S. Wells Williams. Macao, 1842. Vol. XIV, No. 7, pp. 339-346, July, 1845.
82. n.s. (review of S.W.W.'s book). Art. V. Ying Hwa Yun-fu Lih-kiai, 英華韻府歷階. By S. Wells Williams. Vol. XV, No. 3, pp. 145-150, March, 1846.
83. n.s. Art. VII. Illustrations of Scripture drawn from the customs of the Chinese. Vol. XVII, No. 10, pp. 537-540, Oct., 1848.
84. n.s. Art. VIII. Journal of Occurrences. Vol. XVII, No. 10, pp. 543-544, Oct., 1848.
85. n.s. Art. IV. Illustrations of Men and Things in China. Vol. XVII, No. 11, pp. 591-594, Oct., 1848.
86. n.s. Art. II. Anecdotes given by Chinese authors to inculcate a moral or to illustrate human conduct. Vol. XVII, No. 12, pp. 646-650, Dec., 1848.
87. n.s. Art. VII. Protestant Missions in China: operations at the five ports. Vol. XVIII, No. 1, pp. 48-54, Jan., 1849.
88. n.s. Art. I. Essai sur l'Histoire de l'Instruction Publique en Chine. Par E. Biot. Paris, 1847. Vol. XVIII, No. 2, pp. 57-86, Feb., 1849.
89. n.s. Art. VI. Mythological Account of Hiuen-tien Shangti. Vol. XVIII, No. 2, pp. 102-109, Feb., 1849.
90. n.s. Art. I. Theatre Chinois. Traduites pour la premiere fois par M. Bazin aine. Paris, a l'Imprimerie Royale, 1838. Vol. XVIII, No. 3, pp. 113-155, March, 1849.
91. n.s. Art. II. Remarks by a native Chinese preacher upon the Sabbath. Vol. XVIII, No. 3, pp. 156-159, March, 1849.
92. n.s. Art. III. Remarks given by Chinese authors to inculcate a moral, or to illustrate human conduct. Vol. XVIII, No. 3, pp. 159-162, March, 1849.
93. n.s. Art. IV. Journal of Occurrences. Vol. XVIII, No. 3, pp. 162-168, March, 1849.
94. n.s. Art. V. Account of the cultivation of hemp. By N. Rondot. Vol. XVIII, No. 4, pp. 209-216, April, 1849.
95. n.s. Art. VI. Question of Entry into the city of Canton. Vol. XVIII, No. 4, pp. 216-224, April,

- 1849.
96. n.s. Art. I. Journal of a trip overland from Hainan to Canton in 1819 by J.R., the supercargo of the English ship Friendship, Captain Ross. Pp. 116. London, 1822. Vol. XVIII, No. 5, pp. 225-253, April, 1849.
 97. n.s. Art. III. Memoir of the Rev. David Abeel, D.D. By Rev. G.R. Williamson. New York, R. Carter, 1845. Vol. XVIII, No. 5, pp. 260-275, May, 1849.
 98. n.s. Art. IV. Cruise of the U.S. sloop-of-war Preble, commander James Glynn, to Napa and Nagasaki. Vol. XVIII, No. 6, pp. 315-332, June, 1849.
 99. n.s. Art. V. Journal of Occurrences. Vol. XVIII, No. 6, pp. 335-336, June, 1849.
 100. n.s. Art. IV. The Worship of Ancestors among the Chinese. Vol. XVIII, No. 7, pp. 363-384, July, 1849.
 101. n.s. Art. V. Journal of Occurrences. Vol. XVIII, No. 7, pp. 391-392, July, 1849.
 102. n.s. Art. II. Revenge of Miss Shang Sankwan. Vol. XVIII, No. 8, pp. 400-401, Aug., 1849.
 103. n.s. Art. III. List of Works upon China, principally in the English and French languages. Vol. XVIII, No. 8, pp. 402-444, Aug., 1849.
 104. n.s. Art. IV. Religious Intelligence. Vol. XVIII, No. 8, pp. 444-447, Aug., 1849.
 105. n.s. Art. V. Journal of Occurrences: murder of Gov. Amaral at Macao. Vol. XVIII, No. 8. p. 448, Aug., 1849.
 106. n.s. Art. I. Missionary Hospitals in China. Vol. XVIII, No. 10, pp. 504-514, Oct., 1849.
 107. n.s. Art. III. Topography of Kweichan. Vol. XVIII, No. 10, pp. 525-532, Oct., 1849.
 108. n.s. Art. IV. Assassination of H.E. Joao M.F. do Amaral. Vol. XVIII, No. 10, pp. 532-555, Oct., 1849.
 109. n.s. Art. III. Topography of the province of Yunana. Vol. XVIII, No. 11, pp. 588-600, Nov., 1849.
 110. n.s. Art. V. Literary Notices: Translations from the Manchu. By T.T. Meadows. Canton, 1849. Vol. XVIII, No. 11, pp. 606-607, Nov., 1849.
 111. n.s. Art. V. Literary Notices: 3. An Inquiry into the proper mode of rendering the word "God". By Sir George T. Staunton. London, 1849. Vol. XVIII, No. 11, pp. 607-609, Nov., 1849.
 112. n.s. Art. II. Translations from the Manchu. By Thomas T. Meadows. Canton, 1848. III, No. 12, pp. 642-657, Dec., 1849.
 113. n.s. Art. III. List of Works upon China. Vol. XVIII, No. 12, pp. 657-661, Dec., 1849.
 114. n.s. Art. III. Journal of Occurrences: affairs at Macao. Vol. XIX, No. 1, pp. 50-54, Jan., 1850.
 115. n.s. Art. III. Topography of the province of Hupeh. Vol. XIX, No. 2, pp. 97-104, Feb., 1850.
 116. n.s. Art. IV. Topography of the province of Hunan. Vol. XIX, No. 3, pp. 156-162, March, 1850.
 117. n.s. Art. V. Journal of Occurrences: death of the emperor of China. Vol. XIX, No. 3, pp. 165-166, March, 1850.

118. n.s. Art. IV. Topography of Shensi. Vol. XIX, No. 4, pp. 220-226, April, 1850.
119. n.s. Art. VI. Journal of Occurrences. Vol. XIX, No. 4, pp. 231-232, April, 1850.
120. n.s. Art. IV. Moval Metallic Types among the Chinese. Vol. XIX, No. 5, pp. 247-253, May, 1850.
121. n.s. Art. VII. Journal of Occurrences. Vol. XIX, No. 5, pp. 281-288, May, 1850.
122. n.s. Art. I. Notices of the Sagalien river. Vol. XIX, No. 6, pp. 288-300, June, 1850.
123. n.s. Art. IV. Topography of the province of Sz'chuen. Vol. XIX, No. 6, pp. 317-327, June, 1850.
124. n.s. Art. IV. Topography of the province of Sz'chuen. Vol. XIX, No. 7, pp. 394-403, July, 1850.
125. n.s. Art. V. Course and topography of the Hwang ho or Yellow River. Vol. XIX, No. 9, pp. 499-509, Sept., 1850.
126. n.s. Art. IV. Pagodas in and near Canton. Vol. XIX, No. 10, pp. 535-543, Sept., 1850.
127. n.s. Art. V. Version of the Old and New Testaments in Chinese: proceedings of the Protestant missionaries at the several ports, 1850. Vol. XIX, No. 10, pp. 544-548, Oct., 1850.
128. n.s. (S. Wells Williams): Art. II. Travels in Siberia. By Adolph Ermans. Philadelphia, 1850. Vol. XX, No. 1, pp. 18-40, Jan., 1851.
129. n.s. Art. III. Testimony to the truth of Christianity, given by Kiyong. Vol. XX, No. 1, pp. 41-48, Jan., 1851.
130. n.s. Art. IV. Journal of Occurrences. Vol. XX, No. 1, pp. 53-54, Jan., 1851.
131. n.s. Art. I. Topography of the Chinese Empire beyond the provinces. Vol. XX, No. 2, pp. 57-77, Feb., 1851.
132. n.s. Art. II. The Hiang Fan 響墳 or Echoing Tomb. Vol. XX, No. 2, pp. 77-84, Feb., 1851.
133. n.s. Art. V. Course of 珠江, or Pearl River. Vol. XX, No. 2, pp. 105-110, Feb., 1851.
134. n.s. Art. IV. Journal of Occurrences. Vol. XX, No. 2, p. 111, Jan., 1851.
135. n.s. Art. I. Course of 珠江. Vol. XX, No. 3, pp. 113-122, March, 1851.
136. n.s. Art. I. The Ying Hwan Chi-lioh or General Survey of the Maritime Circuit. In 10 books. Fuhchau, 1848. Vol. XX, No. 4, pp. 169-194, April, 1851.
137. n.s. Art. III. Proceedings relating to the Chinese version of the Bible: report of the Committee of the American Bible Society on the word for God; resolutions passed in London; progress of the revision of the Old Testament. Vol. XX, No. 4, pp. 216-224, April, 1851.
138. n.s. Art. IV. Journal of Occurrences; insurgents in Kwangsi. Vol. XX, No. 4, p. 224, April, 1851.
139. n.s. Art. IV. Literary Notices: Specimen of the three-line diamond Chinese type made by the London Missionary Society. Hongkong, 1850. Vol. XX, No. 5, pp. 282-284, May, 1851.
140. n.s. Art. IV. Literary Notices: Philosophical Alamanac in Chinese. By D. D. Maggowan. Ningpo, 1851. Vol. XX, No. 5, pp. 284-285, May, 1851.
141. n.s. Art. V. Journal of Occurrences: progress of the insurgenets in Kwangsi. Vol. XX, No. 5,

- pp. 286-287, May, 1851.
142. n.s. Art. I. Paper money among the Chinese. Vol. XX, No. 6, pp. 289-296. June, 1851.
143. n.s. Art. II. The Chang-peh Shan, or Long White Mountains of Manchuria. Vol. XX, No. 6, pp. 296-298, June, 1851.
144. n.s. Art. V. The Yung Yuen Tsiuen Tsih, 榕園全集. Vol. XX, No. 6, pp. 340-341, June, 1851.
145. n.s. Vol. VIII. A Narrative of a Mission of Inquiry to the Jewish Synagogue at Kaifung fu. Shanghai, 1851. Vol. XX, No. 7, pp. 436-466, July, 1851.
146. n.s. Art. X. Bibliographical notices: Chhong-se Toan. Vol. XX, No. 7, pp. 472-478, July, 1851.
147. n.s. Art. X. Bibliographical notices: An Essay on the Opium Trade. By Nathan Allen. Boston, 1850. Vol. XX, No. 7, pp. 479-485, July, 1851.
148. n.s. Art. X. Bibliographical notices: Letter to the Editor of the Chinese Repository. By Nathan Allen. Boston, 1850. Vol. XX, No. 7, pp. 485-488, July, 1851.
149. n.s. Art. X. Bibliographical notices: A Dissertation on the ancient Chinese Vases. By P.P. Thomas. London, 1851. Vol. XX, No. 7, p. 489, July, 1851.
150. n.s. Art. XI. Journal of Occurrences: The disturbances in Kwansi. Vol. XX, No. 7, pp. 492-500, July, 1851.
151. n.s. Art. XI. Journal of Occurrences: The loss of the French whaler Narwal on Corea. Vol. XX, No. 7, pp. 500-506, July, 1851.
152. n.s. Art. XI. Journal of Occurrences: The death of D.W.C. Olyphant. Vol. XX, No. 7, pp. 506-511, July, 1851.
153. n.s. Art. XI. Journal of Occurrences: The death of the Rev. Charles Gutzlaff. Vol. XX, No. 7, pp. 511-512, July, 1851.
154. n.s. Art. I. List of Protestant Missionaries to the Chinese. Vol. XX, Nos. 8-12, pp. 513-545, Aug.-Dec., 1851.
155. n.s. Art. II. Topography of the province of Honana. Vol. XX, Nos. 8-12, pp. 546-553, Aug.-Dec., 1851.